

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	山本昌彦教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Masahiko Yamamoto
作成者（著者）	吉田, 友英
公開者	東邦大学医学会
発行日	2012.05
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 59(3). p.118 118.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.59.118
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD00333533

山本昌彦教授送別の辞

吉田 友英

東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座（佐倉）准教授

山本教授は、昭和48年に東邦大学をご卒業となり、名越好古教授が主催される耳鼻咽喉科学講座に入局されて以来、東邦大学一途に過ごされ、耳鼻咽喉科の発展に尽くされました。大森時代には、医局長・講師となられ、医局後輩の指導をされました。小松崎篤教授時代には、ご専門のめまい外来を教授とともに進められ、めまいの臨床についても私は非常に多くのことを教わりました。めまい・平衡障害の研究では、体平衡機能の研究を主にされ、特に重心動揺の研究をライフワークとして続けられております。私もめまいの道に進み、山本先生が開発されたBody Tracking Test (BTT) についての研究・指導を受け、この研究が博士論文になりました。

平成3年には、東邦大学佐倉病院の開院にたずさわって、佐倉病院と佐倉病院耳鼻咽喉科の発展に力を注がれました。佐倉病院の20年間の歴史を作られてきたと思っております。佐倉病院開院当初から、大森からの研修として1年交替で2名の医師の受け入れを続け、手術指導を直接行い続けておられました。佐倉で手術を覚え、大森に持ち帰って行くという臨床指導を丁寧に続け、多くの先生を育てられそれぞれ巣立っております。しかし、平成16年に小田教授が定年退任の後からは、佐倉への研修ローテーションは中止されました。その後は、教授とともに私と野村俊之先生、志村玲緒先生の4人で新しい佐倉病院耳鼻咽喉科の再生に入りました。新研修医制度が始まり、耳鼻咽喉科での研修が必須項目から外されたことによって、新しい医局員の確保は難しく、私たちの力にかかっておりましたが、池宮城慶寛先生、重田美由子先生、その2年後には田村裕也先生と3名の医局員が増え、やっと耳鼻咽喉科としての夜明けを迎えることができました。このような窮地の状態でも、山本先生は、研究と学会活動を休むことはなく続けられました。日本耳鼻咽喉科学会、日本耳鼻咽喉科学会千

葉県地方部会、日本めまい平衡医学会、日本耳科学会、国際姿勢と歩行学会 (International Society for Posture and Gait Research:ISPGR) と学会活動を進められ、日本耳鼻咽喉科学会では社会医療委員会を、千葉県地方部会では地方部会長を、日本めまい平衡医学会では理事、日本耳科学会では編集委員長をされ、2011年には第70回日本めまい平衡医学会総会を750名の参加者を迎え開催され、成功裏に終えられました。学会活動は、退任後も継続して続けられるようです。

佐倉病院では、病院の執行部にて、院長補佐、副院長として多くの業績を作られました。開院当初から、インターネットが使用できる環境を模索され、世の中に遅れないような情報インフラ整備の働きかけを法人に行い、現在のインターネット環境の基礎を作られました。この経験が、佐倉病院のオーダリングシステムや電子カルテシステム開発のためのオーダリング委員会委員長として遺憾なく発揮されたと思います。また、脳死判定委員会委員長として、2回の脳死判定シミュレーションを院内にて開催し、Diagnosis Procedure Combination (DPC) 委員会委員長としてDPC導入を先導されました。佐倉病院の大きな変革期に、その方向に重要な事業を行われたことは、その後も語り継がれてゆくものと思っております。

この度、山本教授の退任における退任祝賀会や退任記念誌の発行に際しましては、東邦大学法人、医学部、大森病院、大橋病院とともに佐倉病院教職員の皆様にご尽力をいただき、無事に私の大任を果たすことができました。誌面をお借りして、ここに厚く御礼申し上げます。

名誉教授として東邦大学人として、これからの東邦大学、東邦大学医療センター佐倉病院、東邦大学医療センター佐倉病院耳鼻咽喉科へのご指導をいただくとともに、今までのご貢献に感謝申し上げます。